

令和4年度 第1回浜松聴覚特別支援学校 学校運営協議会 報告

- 1 日 時 令和4年6月30日（木）9:30～11:00
- 2 会 場 浜松聴覚特別支援学校 図書室
- 3 参加者 学校運営協議会委員（4名）、校長、教頭、事務長、学部主事、支援部主任、教務主任
- 4 会議次第 (1) 校長挨拶 (2) 本年度の学校経営〈学校関係者評価委員会〉  
(3) 各学部等の取り組み (4) 授業参観（校内見学）  
(5) 質疑・御意見聴取 \*終了後コンプライアンス委員会
- 5 質疑・御意見聴取より（主な意見）
  - ・発達障害のある高校生への支援に携わっているが、障害認識を進めていくにはどうしたらよいかを考えながら、支援をしている。  
実践例)・振り返りをする。障害があるためにどんなときに苦しんだかなど
    - ・自分自身の障害をどう他者に伝えられるか。「このような状況では、こうになってしまう」など、将来的に働く場などで伝えられるように。  
障害に寄り添いながら、支援をすすめていけるとよい。
  - ・教員が一人一人の表情をよくみて、授業（活動）を進めている。（幼稚部）  
どの学部も視覚的な手段を有効に活用していた。掲示されていた作文を読むと、豊かな表現で書かれていた。言語を大切にした指導は本校ならではの指導。
  - ・きめ細やかな指導をしている。最近の社会ではコミュニケーション力の低い人が多いと感じるが、学校の中でコミュニケーションについてきちんと指導している。
  - ・自然環境に恵まれている地域なので、上手に活用していけたらいい。  
以前、近隣の小学校と四ツ池公園の木の名札をつける活動を一緒に行ったことがある。このような活動は児童がより地域や自然に興味関心を持つきっかけとなる。
  - ・他校のコミュニティスクールの活動の一つに、教職員以外の地域の方々を中心として様々な人材を活用しているので、参考にしてみたらよい。